

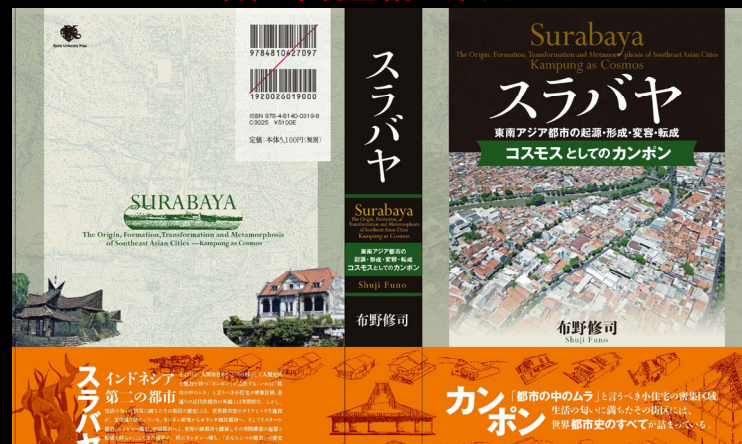
日本大学生産工学部 2021年度後期 公開講座・公開セミナー

11月27日(土) 13:00-14:30

『スラバヤコスモスとしてのカンボン』(第2回)

カンボンとKIP

ー居住環境整備の手法ー



布野修司
日本大学客員教授

カンボンとKIPー居住環境改善の手法

カンボンkampungはインドネシア語でムラを意味する。カンポンガンという「イナカモン」である。都市の居住地なのにカンボンという。英語ではアーバン・ヴィレッジ(都市村落)である。このカンボン、英語の**コンパウンドcompound**(囲われた場所)の語源という。このカンボンに対して、この間、**KIPカンボン・インプルーブメント・プログラム**と呼ばれる興味深い居住環境改善が行われ、国際的に高く評価されてきた。そのさらなる新しい展開を紹介し、日本のまちづくりについて考えたい。

カンポンとKIP

居住環境整備の手法

カンポンKampung

「カンポン」は、マレー（マレーシア・インドネシア）語で、「ムラ（村）」を意味する。カンポンガンkampungánと言え、イナカモノという意味である。興味深いことに、都市の居住地もカンポンという。マレーシアでは行政村もカンポンであるが、インドネシアの行政村はデサdesaである。インドネシアでは、専ら都市のムラの居住地をいう。英語にすれば、「アーバン・ヴィレッジがurban village（都市村落）がぴったりくる。中国では「城中村」である。

「カンポン」は英語のコンパウンドcompoundの語源である（椎野若菜「コンパウンド」と「カンポン」：居住に関する人類学用語の歴史的考察『社会人類学年報』26、2000年）

カンポンについて考えることが世界中の「kampungムラ」、少なくとも、大英帝国が植民地とした地域の「urban village ムラ」について考えることに繋がるということである。

カンポンとKIP

居住環境整備の手法

カンポン：樹木で覆われた屋敷地が集まって、周囲を柵や土塁で囲われた住区

カンポンKampung

コンパウンド、ホームステッド、セトルメント・・・カンポンという言葉がコンパウンドに転化していく過程に西欧諸国の植民地活動

バンテン、パタヴィアあるいはマラッカにおいて民族集団毎に囲われた居住地の一画を指してそう呼ばれていたのが、インドの同様な都市の区画も同様にそう呼ぶようになり（インド英語Anglo-Indian English）、カンポン=コンパウンドはアフリカ大陸の囲われた集落にも用いられる。

Compound kampungが訛ったものである（OED.）

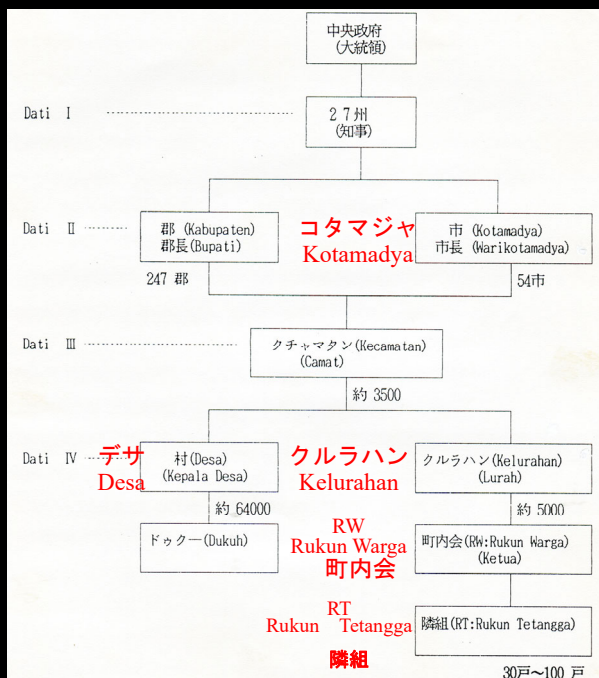
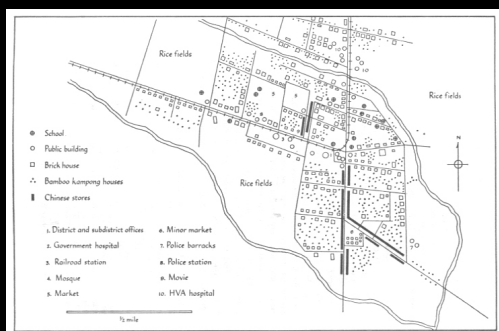
- 1（東洋で）囲いをした白人居留構内、白人屋敷《住宅__商館などがある》
- 2 囲いのある場所《収容所など》 研究社



カンポンkampung

Space Formation I 村落

- 1 デサ・クルラハン・カンポン
- 2 デサの構成
- 3 デサとカンポン
- 4 カンポンとコンパウンド
- 5 ルーマー・アダット・オーストロネシア世界の伝統的住居
- 6 家社会一集まって住むかたち



カンポンkampung RW／RTと町内会／隣組

日本軍政（1942年3月～1945年8月）ジャワに町内会制度導入。

日本の町内会制度：1940年9月11日「部落会町内会等整備要綱」（内務省訓令17号）（「隣組強化法」）5軒から10軒の世帯を一組とし、動員、物資の供出、統制物の配給、防空活動を義務化。団結、自治の振興をうたい、思想統制、相互監視の役割。

日本軍第16軍：ジャワ「隣保制度組織要綱」（1944年1月）隣組tonarigumi、字aza、常会joukai、隣組すなわちルクン・タタンガRT、ルクンとは、ジャワの伝統的概念である「調和、和合」を意味する。タタンガは、隣人である。相互扶助は、ジャワではゴトン・ロヨンと呼ばれ、インドネシアの国是。

デサの全戸を対象にし、10～20戸を単位に隣組を構成し、隣組RT長を置き、区長（デサ長）が任命する。隣組は少なくとも月1回の隣組常会を開催する。カンポンごとに、字長、隣組長、字の有識者によって字常会を組織し、少なくとも月1回の隣組常会を開催する。カンポンは、字と隣組からなる。都市部から始まった隣組の組織化は、すぐさま農村部に波及し、1944年4月末の時点で50万組（508,745）に達する

隣組組織が現在のRTの起源。

戦後、RTそして、字azaはルクン・カンポンrukun kampung=airka'エルケーRK'として存続。

税の徴収、住民登録、転入転出確認、人口・経済統計、政府指令伝達、社会福祉サービスなどの役割

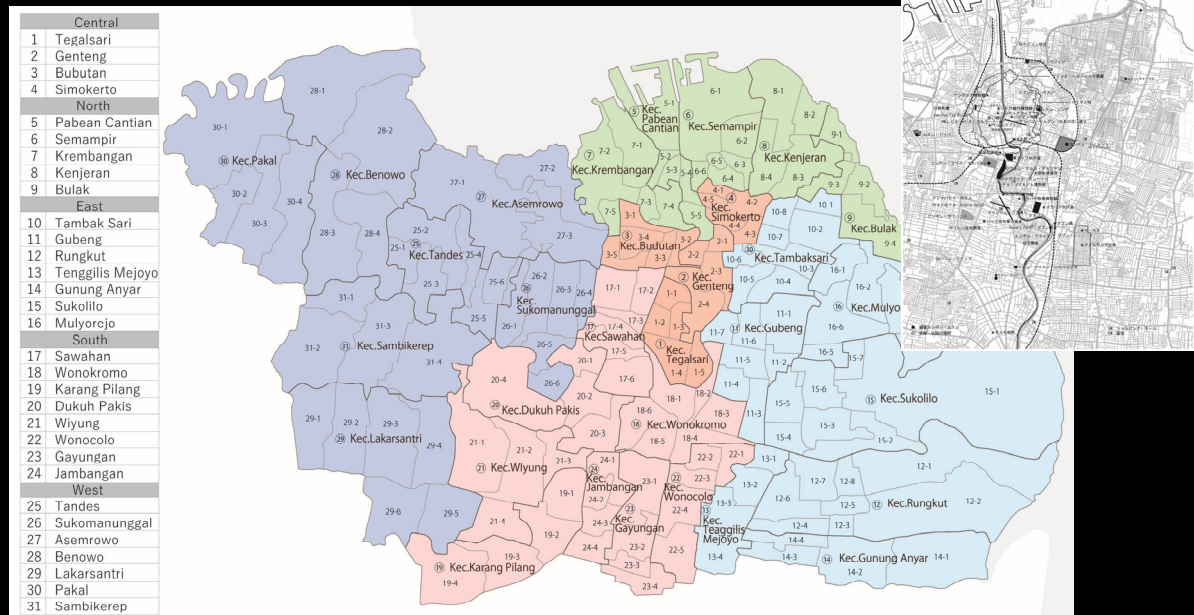
1960年RT/RWに関する地方行政法（Peraturan Daerah Kotapradja Jogjakarta no.9 Tahun 1960 tentang Rukun Tetangga dan Rukun Kampung）が施行RT/RKを政府や政党からは独立した住民組織。

新体制：1979年の村落自治体法（Village Government Law 5）ルクン・ワルガRW導入。

1983年内務大臣決定（Peraturan Menteri Dalam Negeri No.7/1983）（「規定」7号）RT/RW

強制的に組織化されたRT-RWではあるけれど、自律的、自主的な相互扶助組織として存続してきたのは、デサの伝統と隣組の相互扶助の仕組みが共鳴し合ったからである。しかし、それは再び開発独裁体制の成立過程で、再び、国家体制の中に組み込まれることになるのである。カンポンの生活を支える相互扶助活動と選挙の際に巨大な集票マシンとなるのは、カンポンに限らない共同体の二面性である。

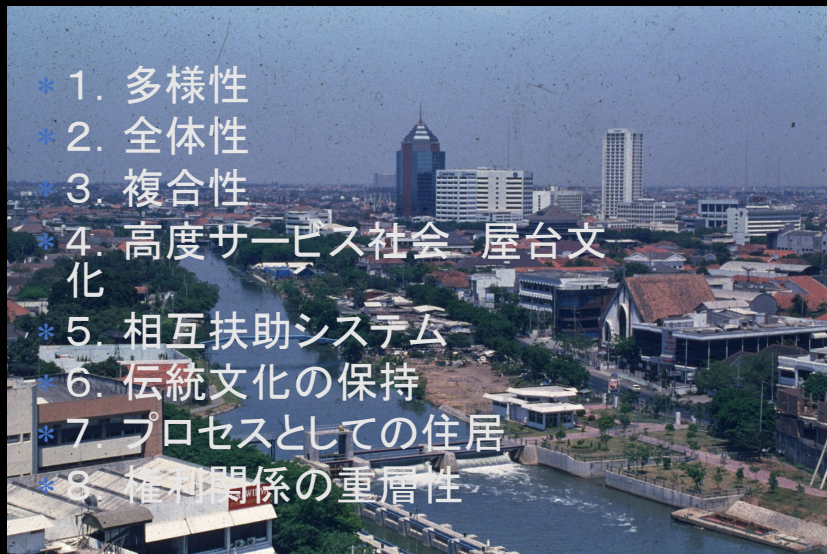
スラバヤのカンポンkampung



スラバヤのカンポンkampung



カンポンkampungの世界



カンポンkampungの世界

1. 多様性



2. 全体性

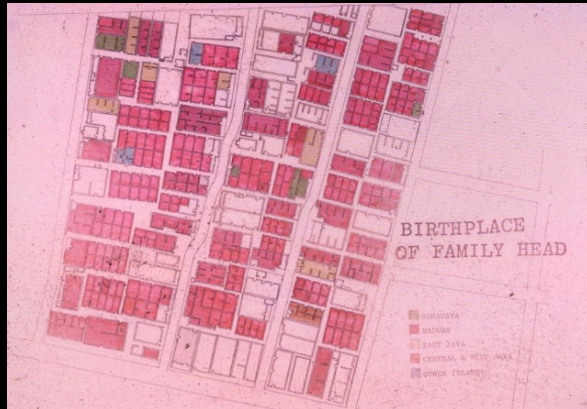


カンポンkampungの世界

1 カンポンの世界
3 複合性

Learning from Kampung
4 高度サービス社会

3. 複合性



4. 高度サービス社会 屋台文化



カンポンkampungの世界 Kampung Community

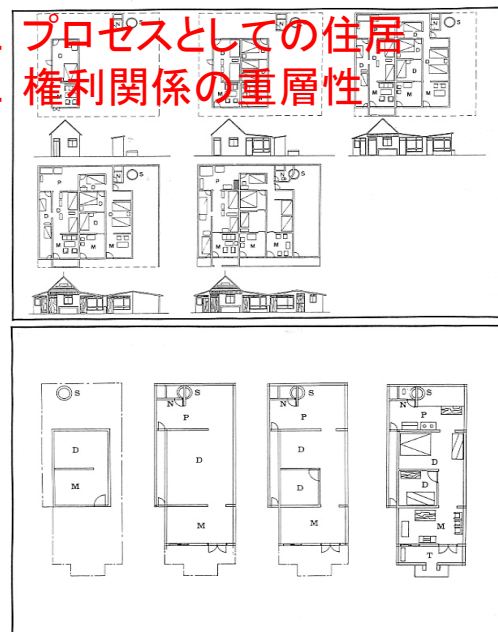
5. 相互扶助システム

6. 伝統文化の保持



- KIP(Kampung Improvement Program)
- Gotong Royong

7. プロセスとしての住居 8. 権利関係の重層性



カンポン住居の構築例

カンポンkampungの世界

The Indonesian Town Revisited



- Urban Involution
- Shared Poverty(貧困の共有)
Shared Energy, Resource,
Food...

Southeast Asian Dynamics
LIT

Urban Issues in Surabaya カンポンの諸問題

- 再スラム化の可能性
- 高層化
- オープン・スペースの貧困
- レンタル・ハウスの問題
- 土地の細分化
- 転出入のメカニズム 人口増



EMRと都市洪水 アジア都市居住地モデル

カンポンkampung・ハウジング・システム

1. カンポン固有の原理の維持
2. 参加
3. スモール・スケール・プロジェクト
4. 段階的アプローチ
5. プロトタイプデザイン
6. レンタル・ルームのデザイン
7. 集合の原理の発見
8. ビルディング・システムの開発
9. 地域産材の利用
10. ワークショップの設立
11. 土地の共有化
12. ころがし方式
13. コーポラティブ・ハウジング
14. アリサンの活用
15. 維持管理システム
16. ガイド・ライン ビルディング・コード

カンポンkampung・ハウジング・システム

- ①総合的アプローチ : Integrated Approach
- ②主体としてのコミュニティ : Community Initiative
- ③参加 : Participation
- ④段階的アプローチ : Step by Step Approach
- ⑤スモール・スケール・プロジェクト : Small Scale Project
- ⑥自力建設・相互扶助によるハウジング : Self Build, Housing by Mutual aid
- ⑦地域の生態系に基づくハウジング・システム : Housing System based on Eco-System
- ⑧適正技術によるハウジング : Appropriate technology for Housing
- ⑨プロセスとしてのハウジング : Housing as a Process
- ⑩多様性の許容 : Variety of Space

カンポン・インプルーブメント・プログラム

Kampung Improvement Program

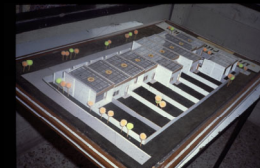
居住環境整備の手法

- a. ローコスト・ハウスの供給 —Low cost housing
- b.スラム・クリアランスと再開発—Slum Clearance & Redevelopment (Renewal)
- c.スラム（不良住宅地）改善事業—Slum Improvement(Upgrading) program
- d. 宅地分譲—Sites & Services
- e. 移住— Resettlement, Immigration
- f. 農村住宅供給— Rural Housing
- g. 住宅融資

Core House

宅地分譲—Sites & Services

Core Housing



c.スラム（不良住宅地）改善事業—Slum Improvement(Upgrading) program

KIP

新規開発，再開発を問わず，直接的な住宅供給を行う政策に対して，オン・サイトで住環境整備を行おうとするのが「スラム」（不良住宅地）改善事業（c）である。これは，「スラム」の生活構造を大きく変えずに，都市公共サービスと最小限のインフラストラクチャー（上下水道，歩道，ゴミ処理）の整備を行おうとするものである。インドネシアのKIPがまさにそれで，もともとは，住宅供給は含まず，物理的な環境の改善，具体的には，上下水道の設置，歩車道の整備，公衆トイレ・バスなど最小限のインフラストラクチャーのみを供給し，住宅改善は居住者に委ねる手法をいう。

KIPの展開

オランダ時代のKampung Verbetering

1960年代末

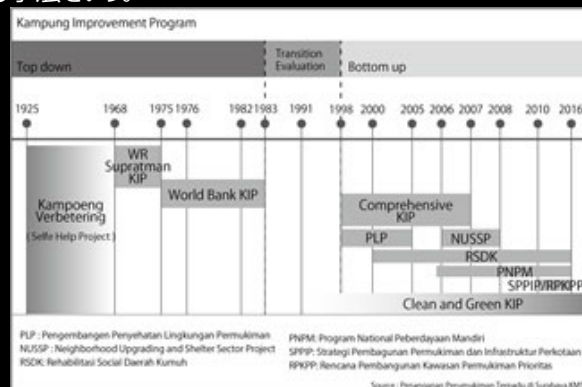
W.R. Spratman KIP

1970年代

World Bank KIP

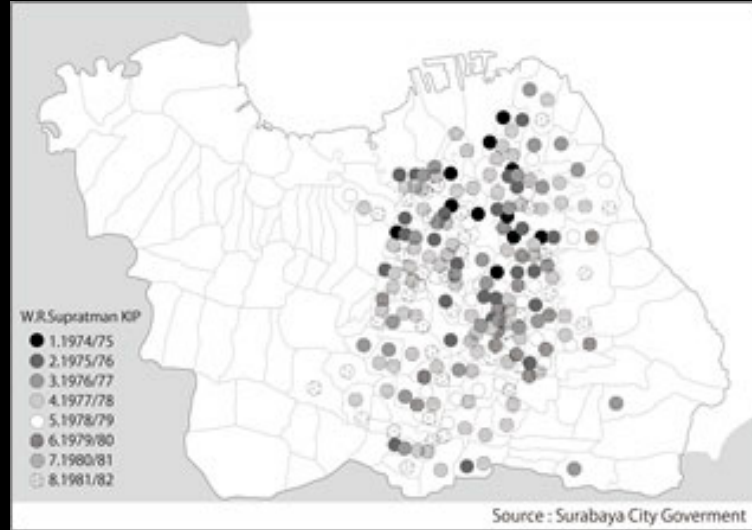
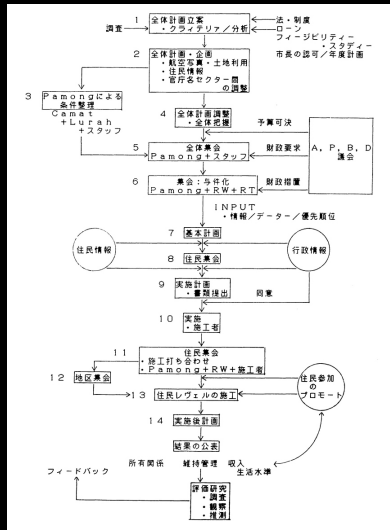
20世紀末～

Comprehensive KIP→Clean & Green KIP



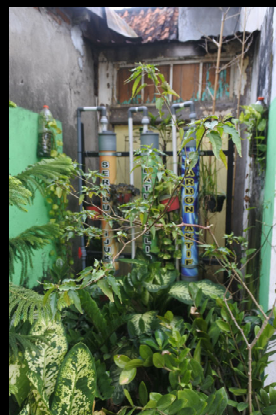
c.スラム（不良住宅地）改善事業 – Slum Improvement (Upgrading) program

KIP



Clean & Clean KIP

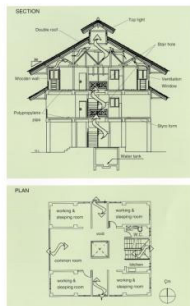
A : 緑化 : アーバン・ファーミング B : コンポスト C : 水浄化システム D : リサイクル



Surabaya Ecohouse

スラバヤ・エコ・ハウス Surabaya Eco-House

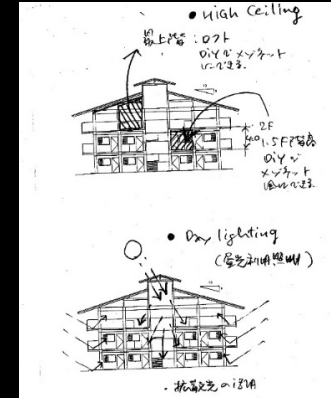
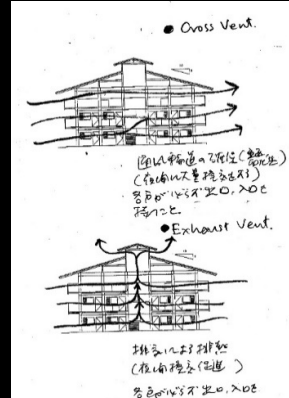
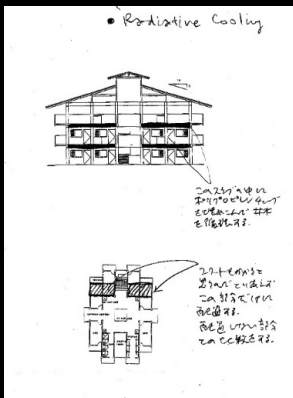
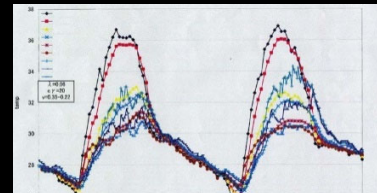
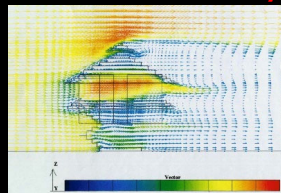
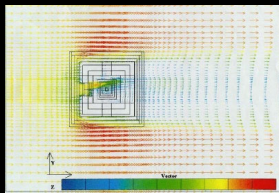
- パッシブ・クーリング 冷房なしで居住性向 ミニマム熱取得
- マキシム放熱
- ストック型構法長 (スケルトン インフィル) リニューアル材
- リサイクル材料 (地域産出材料)
- 創エネルギー 自立志向型システム (Autonomous House)
- PV (環境ポンプ、ファン、共用電力) 天井放射冷房
- 水 自立志向型給水・排水処理システム 補助的ソーラー給湯
- ごみ処理 コンポスト 土壌浄化法 合併浄化槽

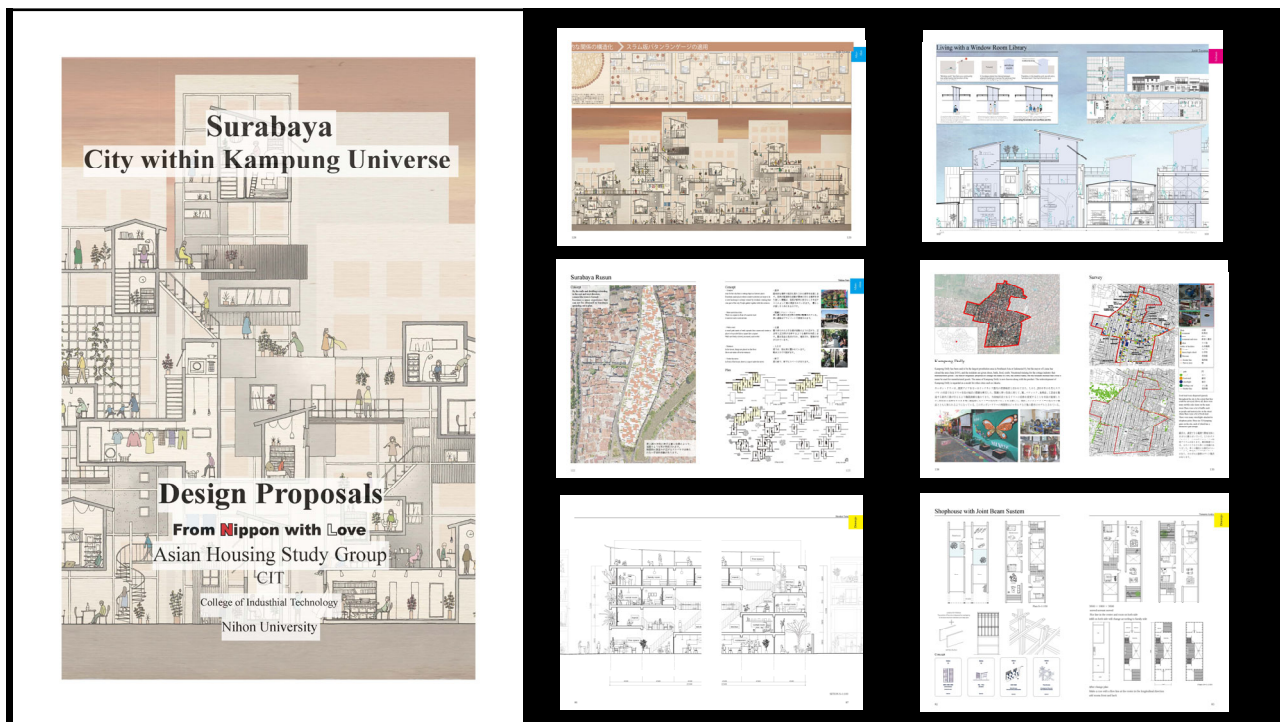


- 大屋根 日射の遮蔽
- 二重屋根
- イジュー (郷子の繊維) 利用
- ボアラスな空間構成 通風 換気 放熱
- 屋光利用照明
- 湿度対策 ビロティ
- 夜間換気 冷却 蓄冷
- 散水
- 緑化
- 蓄冷 井水循環
- スケルトン インフィル 混構造
- コレクティブ・ハウジング
- 中水 合併浄化槽
- 外構 風の道



Surabaya Ecohouse





2020R4 建築設計特別演習Ⅱ 金曜日 10:20-12:20 Zoom+対面（篠崎研究室）
担当 布野修司+篠崎健一

A カンボン・ウジュン Kampung Ujung

エコ・カンボン・RT/RW・モデルの設計

スラバヤ（インドネシア、東ジャワ）のカンボンA.B.Cからひとつをプロジェクト・サイトとして選び、ウイズ・コロナ時代のエコ・カンボン・モデルをRT/RWを単位として具体的に提案せよ。

ABCは、いずれも布野修司（1987）が1983/84に調査し、2015-2018に古田梨香子（2021予定）が調査したカンボンである。

- A カンボン・ウジュン 市北部の高密度カンボン
- B カンボン・サワハン 都心部のオランダ人のために開発された郊外住宅地
- C カンボン・ドノレジョ ABの間の下町のカンボン

本演習課題は、過去五年間に行ってきた建築設計特別演習および建築計画演習を集大成し、また、2020-1の建築計画演習1の提案を踏まえ、具体化へむけて、実施設計を行うことを目標とする。

以下の5年間の検討結果を出発点とする。

- ①CIT Asia Housing Study Group(2020). "Surabaya City within Kampung Universe Design Proposals"-Booklet (pdf) 配布
- ②202001 建築計画演習1 作品集 (pdf) 配布
また、以下の調査を前提とする。
- ③『インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究——ハウジング計画論に関する方法的考察』（学位請求論文 東京大学、1987年）(pdf) 配布
- ④古田梨香子 論文 (pdf) 配布
古田梨香子、山岸輝樹、篠崎健一、広田直行、布野修司：スラバヤ、インドネシアにおけるルーマー・スンの共用空間の使われ方に関する考察、日本建築学会計画系論文集、第84巻、第760号、2019年6月、pp.1333-1340
- ⑤古田梨香子、山岸輝樹、篠崎健一、広田直行、布野修司：スラバヤのカンボンとルーマー・カンボンの変容(1984-2018)に関する考察 CONSIDERATIONS ON TRANSFORMATION (1984-2018) OF KAMPUNG AND RUMAH KAMPUNG IN SURABAYA